

編 集 後 記

今月号は原著2編，症例報告24編の構成になっている．原著は食道ガンの術後腫瘍マーカーの測定意義を検討したものと，もう1編はC型肝炎併存胆管細胞癌例の臨床像についての原著である．いずれも各施設での長年にわたり経験した症例を元にした臨床研究であり，その施設での苦勞された一つ一つの症例の積み重ねの上に成り立ったものであり，貴重なデータである．この2つの原著は共に立派なものであるが，最近の編集委員会に投稿されてくる臨床研究の中には折角の各施設における貴重な症例経験を元にした論文であるのに，Study-Design がうまくなかったり，解析方法に問題があったりといったことで，その苦勞され集積された臨床症例が活かされないものに終わってしまい，論文を採用出来ないことがあるのが大変残念である．やはり論文を投稿される方々は筆頭著者のみでなくその所属施設の名前を提示する以上，その施設の代表の1人として発信するという責任をさらに痛感したうえで投稿する姿勢を持って頂きたいものである．また共著者に名前を連ねる方々，特に直接指導された方（多くは第2著者）は是非この点を注意して，若い筆頭者の指導にあたって頂きたいものである．そのようなプライドを持って投稿して頂くことが，著者にとっても学会にとってもその発展を導く重要な点であろうと感じている．

（宮崎 勝）